

平成18年度 第2次試験 【事例】

与件を活用した解答例

第1問(配点30点)

a	子会社であることの強みは、	メーカーと商
	社という事業の違いもあって、	A社の自律性
	が保たれている点、	親会社からの転籍者や
	整理統合した営業拠点など、	化学メーカーの
持つ経営資源を活用できる点、	が考えられる。	

b	子会社であることの弱みは、	売上高に占め
	る依存度は小さくなく、	親会社の経営の合理
	化・効率化の動きに対応が必要な点、	給与
	水準がA社の業績にかかわらず、	親会社より
も多少低く設定されている点、	が考えられる。	

第2問(配点30点)

(設問1)

A社は海外拠点を、	売上高に占める割合が
伸張しているファインケミカル品等の強化や、	
取引先メーカーの技術動向や生産動向をい	
ち早く察知しコーディネット事業を展開する	
等、発展的に活用することが考えられる。	

(設問2)

A社は、	親企業が絞り込んだ事業に対し、
コーディネット事業に必要な原材料の製造を	
委託する、	整理統合した営業拠点を譲り受
け、コーディネット事業等を展開する拠点と	
する、等の事業展開を模索することができ	

第3問(配点30点)

(設問1)

デメリットは、	商品別と地域別の機能が混
在しているため急速な技術変化にあわせ取	
引先メーカーの製品群に対応できず、	従来
型商社機能のままの体制であるためコーディ	
ネット事業の展開を推進できない、点である。	

(設問2)

A社は今後、	事業別に組織を構築していくこ
とが望ましい。具体的には、	商品別に事業
を再編し急速に変化する技術へ対応すること、	
コーディネット事業部門を新たに設置し迅	
速に新しい事業展開を推進すること、である。	

第4問(配点10点)

デメリットは、	高年齢者の持つ経験は専門
商社としてのものであるため、	今後の事業展
開に向けた独自の人材育成が困難となる点、	
平均年齢の上昇や中堅社員への権限委譲が	
進まず、保守的な組織体質になる点、である。	